

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果

京都市立岡崎中学校

5月27日（木）に、本校3年生（59名）を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、本校の状況がまとめました。この調査は、3年生が対象で、今年度は国語、数学、生徒質問紙（学習や生活について尋ねるもの）が実施されております。調査結果を踏まえ、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況でわかったことをお伝えします。

調査結果 国語・数学

あくまでも3年生全員の平均値ですが国語については、全国・京都府平均とほぼ同じ、数学については全国・京都府平均をやや下回る結果となりました。しかし、生徒個々のデータを見ると、それぞれの課題が見えてきます。一人ひとり自分自身の結果分析が重要です。

国語科より

総合的な正答率は京都府・全国平均とほぼ同じでした。領域別にみると「書くこと」、「読むこと」では同平均を上回り、「話すこと・聞くこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では同平均を下回り、後者では最も平均との差が大きくなりました。差が大きくなった「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」をより詳しく見てみると、漢字や語句の意味を答える問題では平均と同じかそれ以上の正答率だったのに対して、敬語では正答率が伸びませんでした。また、問題形式では記述式の正答率が高く、しっかり文章を書く力が伸びていることが分かりました。

数学科より

数学的な領域では、「数と式」、「資料の活用」の領域で京都府・全国平均に近い数値になっていました。特に「数学的な技能」、「数量や図形などについての知識・理解」のジャンルの設問ではすばらしい結果がでています。一方で、数学的な領域の「図形」、「関数」では、苦手な傾向が見られますが、「与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる」という設問では、京都府・全国平均よりも高い正答率でした。問題のジャンルによって差がある傾向が見られました。

繰り返しになりますが、これらの数値は、あくまでも岡崎中学校の平均値の分析であり、個人の実態を表すものではありません。

学習指導要領に示された授業の内容や方法も、それにより資質・能力が身に付いているかどうかを確かめるこの調査内容も、ともに社会生活で役立つ力を生徒により確かに身に付けることを目指しています。各教科の勉強を、テストや通知票の点数を上げることや進路を決めるために努力することは「一つの目標」ではありますが、最終目標とは考えないようにして、「大人になってから自分の活躍の場を広げるために今勉強している」と捉えてほしいと思います。

生徒質問紙から

生徒質問紙は「学習に対する興味・関心等」「規範意識・自己有用感」「生活習慣・学習習慣」の3つの領域で構成されています。それぞれの項目ごとの結果をご報告します。

① 学習に対する興味・関心等

国語に対する興味・関心は全国平均を大きく上回る結果となっています。特に「好きですか」「授業の内容はよく分かりますか」という質問に好結果が出ています。

数学に対する興味・関心は、「好きですか」という質問への肯定的回答が全国平均を下回り、「授業の内容はよく分かりますか」という質問は全国平均と同程度という結果が出ています。

一方、「学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」という質問には2教科とも全国平均と同程度であり、将来の自分にとっての努力の必要性は感じられているという結果となっています。

② 規範意識・自己有用感

規範意識に関するものとして「人が困っているときは、進んで助けていますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の3つの質問がありましたが、そのいずれも肯定的に回答した割合は全国平均を上回っています。特に、「いじめは、・・・」については全員の生徒が肯定的に回答していました。

また自己有用感に対するものは「自分にはよいところがあると思いますか」については肯定的な回答が全国平均をやや下回り、「将来の夢や目標を持っていますか」については肯定的な回答が全国平均を上回る結果となりました。

③ 生活習慣・学習習慣

生活習慣に関するものとして、朝ごはんの摂取、起床時刻と就寝時刻を尋ねる質問がありました。「朝食を毎日食べていますか」と「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」という質問は全国平均と大差ない結果でしたが、「毎日、同じくらいの時間に寝ていますか」という質問には「あまりしていない」「全くしていない」と答えた生徒が全国平均に比べ高く、2割ほどいたのが気になりました。

学習習慣に関するものは、「家で自分で計画を立てて勉強していますか」「学校の授業時間以外に普段1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか（学習塾・家庭教師含む）」という質問でした。特に1日当たりの勉強時間は平日と休日に分けての回答を求められていました。

「家で自分で計画を立てて勉強していますか」については、「よくしている」と回答した生徒の割合は全国平均の半数程度で、「ときどきしている」と回答した生徒が大変多い印象です。

1日当たりの勉強時間が「3時間以上」と回答した割合が全国平均を大きく上回る反面、「全くしない」「30分より少ない」「30分以上1時間より少ない」と回答した生徒も4割ほどで家庭学習の時間の少なさが気になる結果となりました。

保護者の皆さまへ

全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、可能性を更に伸ばしたり、課題を解決していくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を競うものではありません。

学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねによって定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤になります。今後とも引き続き「お子たちの健やかな育ち」と「学びの環境づくり」にご協力を願いいたします。